

【基本施策を推進する実施計画の事務事業】

No	総合戦略事業	事務事業名	事業の概要 (令和6~7年度)	事業の成果 (令和6年度)	施策への貢献度 (実績)	今後の課題・方向性	部局名	課名	関連事業 (決算事業別概要ページ)
1	○	人材誘致・定住促進対策事業費	移住定住専任相談員等の配置や移住・交流情報ガーデンの設置により、移住相談者等に対する伴走型支援を実施することとも、移住希望者が本市の情報に触れる機会の増加に向け、大都市圏での移住相談会への出展や移住定住専用ポータルサイトの運営等による戦略的な情報発信を展開する。 さらには、お試し定住体験施設の管理運営や地域団体等との連携による中山間地域の空き家の利活用を促進することで、移住定住の推進や自立した地域コミュニティの維持につなげる。 加えて、麒麟のまち1市6町で連携した取組の実施により、圏域での移住促進を図る。	・移住相談窓口（本庁舎）及び鳥取市移住・交流情報ガーデンの設置 ・移住定住専用ポータルサイトの運営及び戦略的な情報発信の実施 ・東京及び大阪での全国規模移住相談会（オンライン開催含む）への出展 圏域合同2回 単独6回 ・各種移住支援制度による補助金の交付 計31件 ・お試し定住体験施設の管理運営 4施設（市街地1、用瀬1、佐治1、気高1） ・移住定住空き家バンクの管理運営 9地域 ・移住定住等による中山間地域の空き家の利活用に係る各種補助金の交付 計5件 ・麒麟のまち圏域の空き家情報の発信	対面移住相談会への出展や各種SNS及び移住定住専用ポータルサイト「とっとりコネクト」での情報発信等により、令和6年度は272世帯の移住相談登録があった。相談者に対する移住定住専任相談員による伴走型支援の実施や各種移住支援制度による支援により、507人（4月時点の鳥取市調べ）と過去最高の移住者の受け入れにつながった。これにより、地域の活性化が期待される。	前年度との比較で、移住相談登録者数・移住者数はともに増加した。今後もポータルサイト等での情報発信により登録者数の増加を図ることも、移住定住専任相談員による丁寧な相談対応により移住者数増へ繋げていく。また、移住希望者等のニーズ把握に努め、移住支援施策の充実を図る。	市民生活部	地域振興課	82
2	○	とっとり・つながり創出事業費	本市への移住定住の促進には、本市と「つながり続ける」または「つながりを作る」関係人口創出の取組が重要となっている。そのため、鳥取県東部の高校生が進学・就職で鳥取県外に転出した場合においても、SNSの活用により、ふるさとに関する情報を受け取ることができ環境の構築に取り組み、「つながり続ける」の実現を図る。また、先輩移住者や地域団体などと連携し、いなか暮らしを体験していただく取組により、「つながりを作る」の実現を図る。	・とっとり・つながりインフルエンサークラブ whereby鳥取県東部の高校生がSNSに投稿することにより、高校生のフォロワーが増え、ふるさとに関する情報を受け取ることができる「つながり続ける」環境の構築につながることができた。 ・とっとり・つながり体験ツアーを11月23日（土）～24（日）に実施 2組4名が参加した。	とっとり・つながりインフルエンサークラブ whereby鳥取県東部の高校生がSNSに投稿することにより、高校生のフォロワーが増え、ふるさとに関する情報を受け取ることができる「つながり続ける」環境の構築につながることができた。 また、体験ツアーで地域団体と連携した農業体験や先輩移住者との交流を通じて鳥取市での生活をイメージしていただき、「つながりを作る」ことができた。	本市への移住定住の促進のため、効果的な事業を検討しながら「つながり続ける」、「つながりを作る」関係人口創出の取組を促進していく。	市民生活部	地域振興課	82
3	○	輝く中山間地域創出事業費	中山間地域の活性化に向けて住民等が自ら行う活性化計画策定及び計画に基づいたソフト事業、中山間地域の資源を活用したむらとまちの交流を支援する。	中山間地域の活性化に向けて住民等が自ら行う活性化計画策定、ソフト事業、里山交流事業への支援 ・計画策定 1件 ・ソフト事業 7件	令和6年度に計画策定を1件、ソフト事業を7件支援したことにより、中山間地域の住民等自らによる地域の活性化が図られた。	計画を策定した地域やソフト事業、里山交流事業を継続して取り組む地域を引き続き支援し、地域づくり活動の定着と継続的発展を図る。	市民生活部	地域振興課	83
4	○	過疎地域振興事業費	地域リーダー等を対象に、より専門的・実践的な講座として「とっとりリーダーアカデミー」を行い、具体的な活動を立ち上げて自ら取り組んでいく人材を養成して地域活性化を目指す。	○とっとりリーダーアカデミーの開催 ゼミ開催及び個別相談を実施し、15名の地域リーダーが誕生した。 【講座開催回数】（計14回） ・開校式の開催 1回 ・テーマ別専門ゼミの開催 3回 ・エリア別地域ゼミの開催 4回 ・麒麟のまち交流ゼミの開催 1回 ・横串連携ゼミの開催 4回 ・成果発表会の開催 1回	リーダーアカデミーで養成した地域リーダーが核となり、地域住民を巻き込んだ活動を実施していくことで、地域の活性化や課題解決が期待できる。	高校生や大学生も対象としたゼミの開催、ドローンやワークーションなど新しいテーマを取り扱う等して、ゼミ参加者の間口を広げていく。 また、継続して活動に取り組む個人や団体に対しては個別相談窓口により日々対応を続け、活動の深化を図っていく。	市民生活部	地域振興課	83

【基本施策を推進する実施計画の事務事業】

No	総合戦略事業	事務事業名	事業の概要 (令和6~7年度)	事業の成果 (令和6年度)	施策への貢献度 (実績)	今後の課題・方向性	部局名	課名	関連事業 (決算事業別概要ページ)
5	○	中山間地域・買い物支援事業費	本市の中山間地域において、移動販売車等の買い物支援に係る取組や、移動販売と見守りを組み合わせた買い物福祉サービスの取組を支援することにより、買い物が困難な地域における買い物環境の改善を図るとともに、中山間地域住民が安心して暮らすための環境づくりを目指す。	移動販売の運営や買い物福祉サービス（見守り）への支援 【補助件数】 ・移動販売運営補助 4件 ・買い物福祉サービス補助 3件	中山間地域における運営補助を4件、移動販売と見守りを組み合わせた買い物福祉サービス補助を3件実施した。これにより、本市の中山間地域における買い物環境が確保され、食料品等の日常の買い物が困難な状況に置かれている、いわゆる買い物弱者に対する支援が図られた。	中山間地域の買い物環境の維持は、中山間地域で暮らす住民の安定的な暮らしに直結する。安心安全な暮らしを確保するために、継続的な支援を実施する。	市民生活部	地域振興課	84
6	○	地域おこし協力隊定住・定着支援事業	本市に受け入れた地域おこし協力隊の任期終了後の定住に要する経費の一部を支援することにより、円滑な定住を図る。	地域おこし協力隊の定住支援 ・家賃補助 2件	2件の家賃補助を支援したことにより、地域おこし協力隊の任期終了後の円滑な定住を図ることができた。	地域おこし協力隊の任期終了後の定住・定着に要する経費の一部を支援することにより、隊員の円滑な定住・定着を図っていく。	市民生活部	地域振興課	86
7	○	小さな拠点整備事業費	本市の中山間地域等において生活する人々が安心して暮らせるような生活サービスや支え合いに取り組む「小さな拠点」の立ち上げを支援する。（気高町・逢坂地区、浜村地区）	地域運営組織の体制強化のため担い手の取り組みを支援したほか、研修の充実や積極的な情報発信を行った。	組織の体制強化、担い手の支援、先進地視察、情報発信など地域住民自らが主体となって「小さな拠点」づくりに取り組むことにより、持続可能で魅力ある中山間地域の振興に向けて取り組むことができた。	安心して暮らせる地域づくりを目指して、育成した担い手を中心に、地域運営組織の法人化・体制強化、交流・活動拠点をつくり、交通ネットワークづくりなどを構築させるため、小さな拠点づくりに対し引き続き支援する。	市民生活部	地域振興課	87
8	○	伝統工芸等後継者育成支援事業費	伝統工芸等の技術を伝承するため、後継者育成研修従事者とその受け入れを行う事業者に対して支援することで、伝統工芸等の保存及び地場産業の活性化を図る。	令和6年度は「あおや和紙工房」にて因州和紙後継者育成として1名の研修生受け入れを行った。研修実施期間は令和6年9月～令和7年1月の5か月間。 ※研修生体調不良により令和7年2月末で研修終了となった。	公募形式による募集を行ったことにより、令和6年度は研修生を1名受け入れすることができたが、残念ながら研修途中で中止となつたため、研修予定期間（3年）を満了することができなかつた。	本市の伝統工芸における後継者不足は技術の伝承が危ぶまれるものであり、喫緊の課題である。今後も引き続き県や伝統工芸事業者等と連携し、効果的な情報発信を行い、研修生及び受入事業者への支援を行う。	経済観光部	経済・雇用戦略課	167
9	○	地域おこし協力隊事業費（国府地域）	都市圏の人材を受け入れ「地域おこし協力隊」に委嘱し、都市圏の人材の中山間地域での地域づくり活動の展開や移住を推進し、地域の維持や活性化を図る。	・(株)兎っ兎ワイナリーに地域おこし協力隊設置業務を委託 ・広島県からの移住者を「地域おこし協力隊」として委嘱（5/1～） ・空き家等の現状調査 ・地域活動等への参加やインスタグラム等による地域情報の発信	都市部から移住した地域おこし協力隊が、幅広い地域づくり活動に参加し地域の魅力を発信していくことで、当地域への移住・定住のきっかけづくりや中山間地域の活性化に寄与することができた。	地域おこし協力隊と連携し、移住定住に向けた取り組みを推進するとともに、地域情報の発信による交流人口の促進を図る。	国府町総合支所	国府町総合支所地域振興課	284
10	○	地域プロジェクトマネージャー事業費（河原地域）	地域を活性化させる重要なプロジェクトを推進する地域プロジェクトマネージャーを任用し、地域づくり活動の展開や空き家の利活用を推進し、地域の維持や活性化を図る。	「地域プロジェクトマネージャー」を1名募集/任用（R6.6.1配置）	地域住民への空き家対策の必要性が浸透し、空き家対策に取り組む機運の醸成に一定程度繋げることができた。 また、地域づくり活動は、地域団体との連絡・調整、県内外での展覧会の折衝など、地域ブランドを高めるための取組を行った。	空き家対策については、地区公民館単位による自主的かつ組織的な活動に繋げていくためのサポートを行う。 地域づくり活動については、運営組織や連携するまちづくり協議会等高齢化が進み世代交代が課題となっており、持続可能な運営体制の確立に向けたサポートを行う。	河原町総合支所	河原町総合支所地域振興課	286
11	○	地域おこし協力隊事業費（用瀬地域）	都市圏の人材を受け入れ、「地域おこし協力隊」に委嘱し、都市圏の人材の中山間地域での地域づくり活動の展開や移住を推進し、地域の維持や活性化を図る。	「地域おこし協力隊」を1名採用（R6.11～） ・「用瀬の流しひな」の製作技術継承と利活用、持続可能な体制づくり ・インスタグラムでの流しひなを含めた伝統文化・地域の情報・魅力発信 ・空き家・空き施設の掘り起こしと利活用及び体制づくりに関する活動を展開した。	赴任初年度は、地域の方々やまちづくり団体等と積極的に関わながら活動を展開した。また『関係人口の創出・拡大』に資する取り組みとして、県外出身の若者を募って町を歩くフィールドワークを実施し、若者の視点から空き家の利活用や移住促進に向けた具体的なニーズ等を知ることができた。	継続してミッションである「流しひな製作技術継承と持続可能な体制づくり」「空き家の掘り起こしと利活用」に取り組むとともに、関係人口・交流人口の創出・拡大に資する活動を展開し、地域の活性化を図っていく。	用瀬町総合支所	用瀬町総合支所地域振興課	284

【基本施策を推進する実施計画の事務事業】

No	総合戦略事業	事務事業名	事業の概要 (令和6~7年度)	事業の成果 (令和6年度)	施策への貢献度 (実績)	今後の課題・方向性	部局名	課名	関連事業 (決算事業別概要ページ)
12	○	地域おこし協力隊事業費 (気高地域)	都市圏の人材を受け入れ、「地域おこし協力隊」に委嘱し、都市圏の人材の中山間地域での地域づくり活動の展開や移住を推進し、地域の維持や活性化を図る。	浜村地区をはじめとした気高地域内をくまなく自転車で巡ることにより、地域の伝統行事、各種イベント、名所や旧跡をインスタグラム「はまむら散歩」で年間を通して情報発信ができた。このほか、写真コンテストの開催や県立美術館オープニングイベントに携わり、貝がら節パレードを実施した他、音楽サークルを立ち上げ町内イベントのにぎわい創出に貢献した。既存イベント、新規イベントの企画を総合支所他、商工会や各種団体へ事業提案を行った。	地域内を自転車で巡ることで地域住民とのつながりができ、地域外からの視点でのアドバイスをきっかけに、新たな動きが生まれており今後も期待される。	地域の課題である情報発信不足に対する取り組みとして、写真クラブを立ち上げおり、特産品開発部などの組織化をおこない、将来的に「はまむらポータルサイト」を立ち上げ地域の活性化を目指す。	気高町総合支所	気高町総合支所地域振興課	284
13	○	地域おこし協力隊事業費 (鹿野地域)	都市圏の人材を受け入れ、「地域おこし協力隊」に委嘱し、都市圏の人材の中山間地域での地域づくり活動の展開や移住を推進し、地域の維持や活性化を図る。	特定非営利活動法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会に隊員の雇用・管理を委託。隊員が古民具や古材を利活用した事業を展開し、地域イベントや出店運営などを行った。	自主企画によるイベントや地域イベントにも出店し地域間連携を促すことで、間接的に移住・定住や地域振興に取り組んでいる。	管理を任せてもらえる空き家をどう増やしていくかが課題であり、地域おこし協力隊員と連携し地域活性化を図っていく。	鹿野町総合支所	鹿野町総合支所地域振興課	284
14	○	文化交流拠点周辺整備事業費	旧鹿野小学校校舎は耐震性が低く危険性も高いため、令和5年度から国の交付金事業を活用し、同施設を解体し、「鳥の劇場」を中心とした文化・芸術などの拠点として再整備を進めている。 あわせて、本事業において旧グラウンド部分を劇場と一体的に多目的に利用できる広場や駐車スペースなどの環境整備を行うことで、多様な人々が「出会い」、「集い」、「学び」、「つながる」交流拠点エリアを創出し地域の活性化を目指す。	旧鹿野小学校広場・駐車場整備の実施設計完了。	文化施設の適正な維持管理を進め、文化芸術によるまちづくりの推進と魅力ある中山間地域の振興につなげる。	実施設計に基づき、広場・駐車場の整備を進めていく。	鹿野町総合支所	鹿野町総合支所地域振興課	292
15		わったいな祭事業費	地域住民団体との共催によるイベントをわったいな祭の一環として開催、城下町の空家利用店舗、特産品販売、文化団体の作品展示など地元（じげ）のひと・ものを集めると取組を実施する。 また、旧鹿野小学校敷地内の新施設建設を見据え、城下町の空き家利用店舗の出店を鳥の劇場施設に拡大し、舞台芸術を核とした賑わいづくりに向けた事業を実施する。	・城下町並みPR事業：「週末だけのまちのみせ」9/28、9/29実施（2000人来場） ・農産物・特産物販売促進事業：鹿野えもん市4/28、10/27実施（1400人来場） ・河内果樹の里山まつり10/20実施（100人来場） ・芸能発表10/27実施（160人来場） ・作品展示10/5-10/31実施（1088人来場）	地域住民団体と共催し複数のイベントを実施することで、地域に人を呼び込み、地域住民との交流を活性化する取り組みに繋がっている。	実行委員会で効果を検証し見直しを行いながら、引き続きわったいな祭事業を支援していく。	鹿野町総合支所	鹿野町総合支所地域振興課	293